

イスラーム社会の 変革の胎動とNGO

～「イスラーム的価値」の社会的実践から学ぶ～



上：現地クリニックで診察を行うレシャード医師／下：「カレズの会」の現地クリニックにて女性たちに公衆衛生の講習を行う

かたくなな主義の主張と暴力、そして圧政と人権侵害…。

欧米諸国や日本におけるイスラームやムスリム（イスラーム教徒）をめぐる言説は、これらの否定的なイメージに彩られています。そして、国際社会の介入・援助による「改革と民主化」が、不可避であるとの思考法に私たちはとらわれているのではないのでしょうか。

しかし、こうした偏った情報への接し方や思考法によって私たちの眼から遠ざけられているものがあります。その一つが、イスラーム圏において国際的なネットワークを構築しながら、平和・開発・人権・人道支援などの分野で活動するムスリムの非政府系組織（NGO）の存在です。

イスラーム社会の中でNGOは、今、どのような社会的役割を果たしているのか？

また「イスラーム的価値」はその活動にどのように活かされているのか？

そして非イスラーム圏に生きる私たちは、こうしたイスラーム社会のNGOやその活動から何を学ぶことができるのか？

これらの問いは、さらにイスラーム世界に対する日本の「援助」政策の再考を迫る問いへと発展します。イスラーム社会を対象にした欧米や日本の政府開発援助（ODA）は、これまでイスラーム社会の市民組織やNGOにどれだけ目を向けてきたのか、また平和を求め、異文化との共生を志向する「イスラーム的価値」の広がりにもどの程度貢献、あるいは阻害してきたのか？

〈NGOと社会〉の会では法政大学国際文化学部との共催の下、これらの問いを考えるヒントを探るものとして、シンポジウムを開催します。ぜひご参加ください。

第2回

イスラーム社会のNGO～その多様性と実践に学ぶ～

□日時 2012年10月27日（土） 午後2時～5時半

□場所 法政大学市ヶ谷キャンパス（JR/地下鉄 飯田橋駅下車）58年館5階856教室（正門を入れて正面の建物左側入口）

□発題

「イスラーム社会における「市民社会」の台頭：その特徴とパレスチナ問題への影響」…………… **イヤース・サリーム**
（パレスチナ・ガザ地区出身。同志社大学大学院博士課程／元中部大学講師）

「イスラーム的慈善制度とは何か」…………… **子島 進**（東洋大学教員）

「アフガニスタン社会と人びとから学んだこと——人道支援活動に関わって」…………… **長谷部貴俊**
（日本国際ボランティアセンター [JVC]）

※ 発題者を交えた全体討論では、「アフガニスタン史の中の日本、日本史の中のアフガニスタン」をキーワードに、これからのありうべき「復興支援」について考えます。

□参加費 500円（資料代込・法政大学生は無料）

□司会・コーディネータ 中野憲志（先住民族・第四世界研究）

□共催 〈NGOと社会〉の会／法政大学国際文化学部

□お問い合わせ……………（株）新評論編集部内〈NGOと社会〉の会：TEL 03-3202-7391／FAX 03-3202-5832